

令和5年度 鈴鹿市立井田川小学校 校内研究実施報告書

1 研究主題

研究主題	聴き合い，伝え合い，主体的に学ぶ子どもをめざして ～「わかる！」授業づくりと安心して学び合える学級集団づくりを通して～
教科・領域	算数

2 研究の経過

一学期	<ul style="list-style-type: none"> 4月 ・ 研究主題設定 副主題設定 ・ 研究主題設定の理由，研究内容及び指導の重点 協議 ・ 指導案作成について共通認識 5月 ・ 各学年 年間指導計画 単元構想 作成 (カリキュラム・マネジメント 実践) ・ 学調及びみえスタディ・チェックの自校採点・分析 6月 ・ せせらぎ学級 研究授業 6月～7月 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学年部授業参観（『ちょこっと参観』）
夏季休業中	<ul style="list-style-type: none"> 7月 ・ 市教委等主催研修への参加 8月 ・ 夏季校内研修会 「話し合う・聴き合う協働的な学びについて」講師招聘 学力向上に向けての取組進捗状況交流 人権教育レポート研修会 ICT 研修会 ・ 環境整備 ・ 市教委等主催研修への参加
二学期	<ul style="list-style-type: none"> 9月 ・ 学調分析 ・ カリキュラム・マネジメント見直し 10月 ・ 3年 研究授業 講師招聘 (事前検討会 事後検討会) 11月 ・ 5年 研究授業 講師招聘 (事前検討会 事後検討会)
三学期	<ul style="list-style-type: none"> 1月 ・ 成果と課題 まとめ ・ 年間指導計画の見直し カリキュラムマネジメント見直し 2月 ・ スタディ・チェックの自校採点・分析 ・ 学力向上に向けての取組進捗状況交流 3月 ・ 紀要作成 ・ 次年度に向けての準備

3 成果と課題

①各学年のふり返り

〈1年生〉

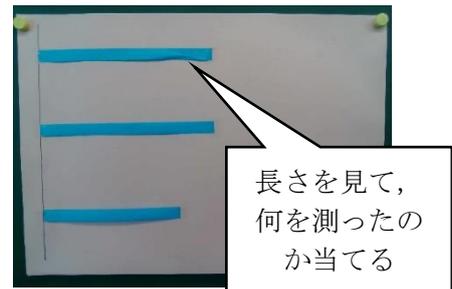
○ペア・グループでの協働的な学習について

・入学～初めてのグループ活動

4月は、比較的単元構成の融通が利く生活科や学活の中でグループ活動を行っていった。基本的には、3人一組の生活班を活用してのグループ活動が中心であった。この時期は、“一人では時間がかかるけど、友だちと協力することによってより効率的に作業を進めることができる”ということを経験できるような活動を多く行った。

・1学期後半～算数科でのグループ活動

児童がグループ活動に慣れてきたころに、算数科でもグループ活動を取り入れられるようになった。算数科の『長さ』の単元では、教室にあるものの長さをグループで3つ測り、台紙にまとめてクイズを出すという活動を行った。この時期のグループ活動では、グループの中で一人一人が役割をもち、各々が自分の意見を出していけるような活動を設定するように心掛けた。



・2学期～ICTを活用したグループ学習

1学期は、chrome bookの基本的な操作に慣れさせることを目標としていたため、グループ学習での効果的な活用には至らなかった。2学期は、児童がある程度端末の扱いに習熟してきたため、算数科『かたちあそび』の単元でオクリンクのカメラ機能を活用した授業を行った。この単元では、複数の立体を組み合わせた作品や、グループ分けした立体などを撮影し、それに説明を書きこんで共有する活動を行った。端末を活用して共有を行ったことにより、児童は「他者に分かりやすい見せ方」を意識して撮影・発表をするようになった。

年間を通して端末活用で感じたことは、1年生の児童はまだタイピング入力もできず知らない言葉も多いため、意見共有や探究活動での活用の幅は狭くなってしまった。

・2学期後半～ペアでの問題解決

2学期以降、児童の話し合いのレベルもある程度向上し、問題解決のために活発に意見交換を行う姿が多く見られるようになってきた。この時期から、ペアでの学び合いの場面を取り入れる場面が増えていった。

国語科の『これは、なんででしょう』の単元では、ペアでスリーヒントクイズを作成して、発表する学習を行った。発表のために二人で話題や内容を話し合っていく中で、相手の発言を受けて自身の考えを深めていく児童の姿が見られるようになった。また、お互いの考えを理解し、より納得した形で考えをまとめていく話し合いの活動では、自分一人では考えつかないようなアイデアが出せると同時に、異なる二人の考えをまとめないといけないという難しさもある。この単元の学習では、二人の考えを整理して対話的な学びを促進させるためのツールとして、「発表メモ」を作成させ、自分たちの発表の内容や構成を可視化させた。



〈2年生〉

○ICTの活用について

- ・絵本の読み聞かせ
- ・書画カメラを使用してノートの書き方指導
- ・新出漢字の学習時に漢字ドリルを拡大で写し、書き方指導
- ・立体の作品をカメラで撮影し、撮影したものに書き込みをする活動
- ・全員の考えを一度に提示したい時にオクリンクの提出画面を活用
- ・九九カードやブロックなど、手元を大きく映し、自分の考えを発表させたり学習内容の確認や定着をしたりする時に活用した。



◎書画カメラは拡大縮小できるので、漢字の形をしっかりと確認したい時や教科書の図で確認しづらいものなどに対して有効に活用することができた。ノート指導の確認についても、児童と同じノートを用いて指導できるので徹底しやすく有効であった。

○協働的な学習について

国語「にたいみのことば はんたいのいみのことば」

本文中の言葉を似た意味の言葉で書き換える問題において、オクリンクで自分の考えを提出させた。その提出させた考えをグループ分けし、教師が個人の考えを把握した上で、どの言葉が適しているのか、ペアや全体で話し合う活動を入れた。その言葉の持つ意味については、その言葉を動作化したり絵に表したりすると児童はわかりやすいようだった。

◎どのような考えを持っているのかについては把握しやすく、さらにグループ化できることで児童の考えを把握しやすく良かった。

国語「見たこと、かんじたこと」

詩の学習で作品の題名や本文中の言葉を隠し、何が入ると思うか他の部分から予想させ、思ったことをどんどん発表させる活動を行った。

図工「にぎにぎねん土」

粘土の立体の作品（何も考えずにぐちゃっと好きなように形を変形させたもの）が何に見えるかという活動を行った。その時、作品をオクリンクで写真を撮って、立体の作品に書き込みをして何に見えるか発表をした。何に見えるかわからない児童に対して、その児童の写真をスクリーンに映し出し、アドバイスをする活動を入れた。

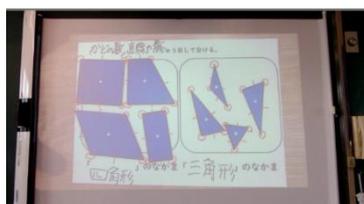
版画「あったらいいなこんなお花」

こんな素敵なお花があったらいいなと思う花のイラストを下書きに描いた。どうしてもアイデアが浮かばず、困っている児童に対して、スクリーンに映してアドバイスをもらう活動を入れた。

◎他の児童の考えをいろいろ聴く中で、発想が乏しい児童も考えを膨らませることができた。

算数「三角形と四角形」「780はどんな数」「図をつかって考えよう」など

考えが多数出るであろう問題においてオクリンクを活用した。意見の対立の場を設定したのだが、あまり活発に話し合われる姿が見られなかった。ワークシートや発表のさせ方においていろいろな工夫が必要であったのではと振り返る。



〈3年生〉

○伝え合うことについて (ペア・グループでの協働的な学び)

○ICTの活用について

〈総合的な学習の時間の中で〉

「井田川はかせになろう」をテーマに町たんけんをし、出てきた疑問を各自で調べた。わかったことをグループで協力し、ジャムボードを使って学級で共有した。その後、各自でスライドを作り、発表の時間をとった。まだまだタイピングに慣れていない児童や、調べてきたことが少ない児童も、グループで協力することで積極的に参加しようとする姿があった。



2学期には、「井田川を守る消防団」について聞いたり調べたりしたことを班でスライドにまとめ発表した。班で協力して何を伝えたいかを話し合い、スライドにまとめた。どのページを担当するかを決めながら進めている様子があった。

〈動画の活用〉

④スピーカーから流れるぼうさいむ線がよく聞こえるのは、地図で7cmまでの場所です。ゆみさんやおばあさんの家では、それぞれクケのぼうさいむ線がよく聞こえますか。

答え

ゆみさんの家	聞こえる (7)
聞こえない (7)	
おばあさんの家	聞こえる (7)
聞こえない (7)	

動画

算数「まるい形を調べよう」では、コンパスの使い方を動画に撮って説明をする活動を行った。班の中で、コンパスを動かす人、説明をする人、動画を撮りながら説明を聞いている人と役割分担が生まれ、自然と協力している姿があった。動画を撮ることで、わかりやすく説明をしようしたり、正しい動かし方をしたり、見やすく撮ろうとしたりする意識が高まった。

〈社会の時間の中で〉

「町のようすとくらしのうつりかわり」の中で昔と今の様子を比べる際に、国土地理院の「地理院地図」を使って比較を行った。今と同じところと違うところを見つけさせ、ペアやグループで交流させた。自然と友達と話をしながら地図を見合う姿があった。



昔の道具を調べる際には、班ごとに調べた道具の写真と説明をまとめたスライドを作る活動を行った。班で相談しながら、それぞれがどの道具について説明するのかを決め、作っていく姿があった。

名前 (樋口優妃)
調べた道具 (蓄音機)

せつめい
音や声を記録したレコードから音を出す機械です。取っ手を回してゼンマイをまき、ゼンマイのちからでレコードを回すと、はりがレコードにきろくされた、音を拾って音が出ます。

〈難易度の高い課題への取り組みの中で〉

3年生19人でおでかけをします。車に4人ずつ乗ります。みんなが乗るには、車は何台ありますか。

式・考え $19 \div 4 = 4 \text{ 台} \text{ 残り} 3$

答え 5 台

3年生19人でおでかけをします。車に4人ずつ乗ります。みんなが乗るには、車は何台ありますか。

あまり3をどう捉えるのかが難しく、一人ではなかなか考えにくい児童もたくさんいた。オクリンクを使って図や式に表した上で、交流の場面で図を使って説明し合う姿があり、ほとんどの児童が、のこりの3人乗るためにもう一台車が必要だという答えにたどり着くことが

できた。

〈その他の場面でのICT活用〉

- ・算数のわり算を考える際にジャムボードを使っておはじきの操作ができるようにした。
- ・体育の「マット運動」「跳び箱」では、班で協力して自分の動きを動画に撮り、オクリンクで提出させた。見る視点を与え、自分で振り返らせるようにした。
- ・図工の作品は全てスライドに残し、コメント機能を使い、友達の作品の鑑賞も行った。
- ・単元の最後や宿題で音読を動画に撮らせるようにした。

〈4年生〉

○伝え合うことについて (ペア・グループでの協働的な学び) /ICT の活用について

〈社会の時間の中で〉 社会「自然や歴史を活かした三重県の観光地を知ろう」の授業では、興味がある三重県の観光地を選び、グループ毎にスライドにまとめ、クラス全体に向けて発表するという流れで授業を行った。1学期から、自分の調べたことや考えをまとめたスライドを作成することは他の授業においても取り入れてきたが、3学期は特に「人に伝える発表をする」ことを意識させるようにした。スライドを作り始めた当初は、調べた情報を羅列するだけのものが多くみられた。そこで、中間発表を行わせ、それぞれの班の良かった点、改善したほうがよい点を児童に書き出させ、自分たちのグループの発表が客観的にどう見えるのかを把握させるようにした。すると、ほとんどのグループが他のグループからのフィードバックをもとに、スライド自体の修正や聞く側を意識した話し方や伝え方を意識した修正を加えていた。この経験から、自分が伝えたことが相手にとって伝わりやすいものであるか、一方的に話すだけになっていないか考える児童が増えてきたように思う。

オハイブルーについて

みえけんおわせしゅき

三重県尾鷲市九鬼町にある。

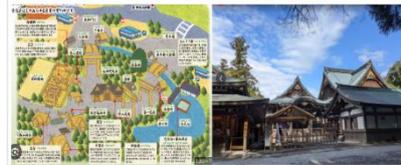
エメラルドグリーン色の海。

石のような壁で覆われている

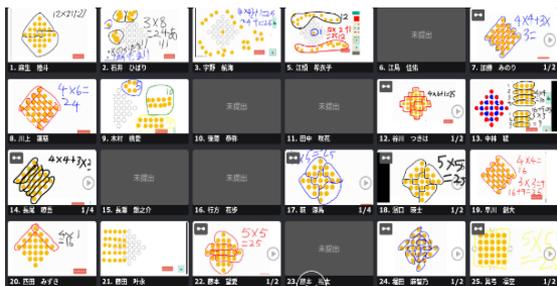
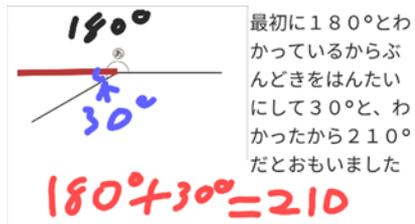
3色の海の色がある

プールのような色

1.調べた場所 (伊勢神宮) 三重県伊勢市



〈算数の授業の中で〉 算数「角の大きさ」の授業では、「課題を確認する→自分で解き方を考える→自分の考えた解き方を図・言葉・式のどれかで表せるように考える→ペアで解き方を話し合う→オクリンクで自分の考えを提出する→自分の考えをグループ内で説明しあう」という流れで授業を行った。2パターンの解き方が教科書には例として載っていたが、解き方が1つわかった子どもたちは別の解き方で角度を求めることができないかグループで相談しあった。すると、個別で考えたときよりも意欲的に学習に取り組んでいると感じた。



算数「計算のやくそくを調べよう」の授業では、デジタルコンテンツで作成した自分の考えと式をスクリーンショットで撮り、オクリンクで共有した。デジタルコンテンツを具体的に操作することで活発な意見交流をする姿が見られた。また、発展として他の児童が書いた図を計算式で表すことにも挑戦したが、デジタルコンテンツに書き込みをしてまとまりを作って立式する姿も見られ、効果的に活用していると感じた。

〈その他の場面でのICT活用〉

- ・体育の授業では、鉄棒や跳び箱をする際にペアで動画を撮影させ、その動画を見ながら振り返りと今後の改善について話し合わせた。
- ・図工の授業では、作品をスライドで共有し、友達の作品にコメントをさせた。
- ・総合の授業では、スライドを活用し、井田川地区の水害についてまとめさせた。

③国語：意味調べ

新しい単元に入るたびに、スプレッドシートで、班ごとにシートを分け、あらかじめ教師がピックアップしておいた単語に加え、意味の分からない単語の意味調べをグループでさせた。

高学年になると、話の長さも長くなり、難しい単語もたくさん出てくる。グループで調べる単語を分けることで、一人ひとりの負担が減り、子どもたちもこれだけなら～と辞書を引くことのハードルを少し下げ、取り組むことができた。

〈6年生〉

○ 伝え合うことについて（ペア・グループ活動での協働的な学び）

「みんなが安心してクラスで過ごすために」安心ルールを作ろう

白鳥中学校区の取り組みとして6年生では「安心ルール作り」をした。「安心ルール作り」が完成するまで、毎時間グループ学習で意見を出し合い全体で交流した。

学習の流れは、自分のクラスをどう思う？「好きなところ・良いと思うところ」⇒クラスは「こうなればもっとよくなるのに」と感じること⇒クラスは「こうなればもっとよくなるのに」と感じること。授業編。⇒ クラスは「こうなればもっとよくなるのに」と感じること。休み時間編。⇒ クラスは「こうなればもっとよくなるのに」と感じることその他（登下校・給食等）編。⇒ 子どもたちから出た意見を集約しチェック表作成。⇒ その後週1回検証（個人）の時間をとる。月1回全体で検証の時間をとる。（現在も）
※下線部分は、グループ活動を取り入れている時間。

たくさん意見を出させたり、その意見に対しての意見を出させたりするには、グループ活動を取り入れるほうが活発である。全体の場合では、なかなか自分の意見が言えない子も小さいグループでは、話すことができるので有効であると考える。

子どもたちが作り上げた「安心ルール」をチェック表として、毎週使っている。

※毎週子どもたちが使っているチェック表※

授業中			休み時間			その他		
1	2	3	1	2	3	1	2	3
発表を聞く側は、発表者のほうを向き、話を聞こう。	発表した子が傷つかない反応をしよう。	発表者の話を最後まで聞き、否定しないようにしよう。	ちくちく言葉や危ない遊びは、周りの人が気にかけて注意しよう。	ルールやマナーを把握し、自分の行動を気かけよう。	図書館に行つて、気持ちを落ち着かせよう。	そうじや給食の時間は、自覚をもつて行動しよう。	児童会などの提案は、守っていこう。	登下校は、安全に通学しよう。

「みんなが安心してクラスで過ごすために」

○ ICT の活用について

夏の研修での発表に加えて年間を通して、次のことをやってきた。

- ・スライド作り・・・・・・・・「夏休み、冬休みの宿題、英語、職業調べ」等
調べたことをきっかけ・内容など項目に分けて写真等を貼り付けながらスライドを作った。発表も行い、その子のことを知ることができた。
- ・図工の作品記録・・・・・・・・図工の作品ができた時点で、作品名、うまくいったところ、苦労したところ等をクラスルームに記録する。作品の写真もつける。
- ・学期末の振り返り・・・・・・・・6年生が目指す3つの姿、学習、生活、道徳の振り返りをクラスルームに記録する。
- ・体育・・・・・・・・マツト運動の際に、何も指導しない時の技の動画を1回目に撮る。（ビフォー）
2回目以降は、教師の指導と班で練習を見合い、良いところと直したほうが良いところを言い合った。
最後に動画を撮り（アフター）、ビフォーと比べて自分の良くなったところを確認した。自分が良くなったところを動画として確認することができたので良かった。
- ・オクリンク・・・・・・・・算数のめあて・まとめづくり・小テスト等。
算数のまとめづくりは、公開機能を使い、考えにくい子は友だちのを読み、自分なりに文章を作ることができた。

②研修全体のふり返りと来年度に向けて

○成果 ●課題 □改善案、要望等

研究主題について

①聴きあうことについて

□聴き合うためには、それぞれの考えをもち、それを相手に伝えられるようにならなくてはならない。一部、その土俵にすら立てていない子もいる。まわりもその姿を理解して、聞き合い伝え合えるようになっていけると良い。

●聞き名人・話し名人の活用に偏りがある。特別教室などにも掲示し、いろいろな場面で活用できるとよい。

●まず誰かの話を聞く力をつけることが大事だと思った。

●低学年のうち「聴き名人」等の型を使って聴けるようにしていきたい。(伝える方も同じく)

②伝え合うことについて

○●一生懸命伝えようとしているが、聞き手が上の空になっていることもある。(低学年)

○協働的な課題を意識することによって、難しい課題をなんとかしようとし合う姿が見られた。少グループでの活動は効果的だった。児童の話し合いを活発にするためには、課題設定の工夫が重要だと感じた。

③主体的に学ぶことについて

□子どもたちが「やりたい！」と思えたことについては、主体的に動ける姿がある。それらを活かせるように仕組んでいけるとよい。

□各学年が食いつきやすい課題をストックしていくと、来年度につながっていくのでは。

○課題が児童の実態に合っていると主体的に学ぶ姿があった。

課題設定の工夫や、授業中の教師の声掛けによって、児童が聞きたいと思えるような場面を設定していきたい。上手くいったこと、いかなかったことも含めて、研修会などの中で、教員のアイデアを交換していけるとよい。

研究教科 算数について

今年度の重点取り組みにおける成果と課題

① ICT の活用について

●無理に取り入れた場面もあった。

→○しかし、それについて議論したことはとても意味があった。また、「こうしてはどうか」とアイデアを出し合ったことで、スキルの向上につながった。

●算数で使える場を考えるのが難しかった。使用場面が限られている気がする。

□ICTを使ったことによって良かったと思える活動を探していく必要がある。

○ICTを活用することによって教師の授業準備の時間は圧倒的に減った。

○書画カメラなどにより、児童の考えの共有は容易になったと感じる。

② 協働的な学習について

○協働学習を重点取り組みにしてもらったことで、「協働学習」について学べた。

○「学びのイノベーション事業」がわかりやすかったので、今後も活用していけるとよ

い。

○ICT と協働的な学習の相性はよかった。児童も端末の扱いに慣れているので、調べ学習から発表までの流れがスムーズに行える。（特に総合）

○下の層の子どもはグループで意見を出しづらいが、「話を聞く」という体験は少なくともできるので、一斉授業よりも「やった」という実感を持っているのでは。

□教師の課題設定の工夫によって質が大きく変わってくる。

●1年生は小グループでの話し合いができるようになるまで時間がかかった。2学期の後半にやっと端末を活用しながらグループワークができるようになった。

○ICT と協働学習と一緒にやるのは難しいと思ったが、なんとかやろうとしたことで見えてきたものがあった。

●協働学習を日常化していくのが今後の課題か。

協働学習を日常化していけるよう、ゆくゆくは教科を算数科にしぼらずに行っていきたい。全体研や学年部研だけでなく、小さな取り組みを日常的に行っていきたい。

今年度の全体研について（せせらぎ含む）

授業研

○回数はそのままよい。

○せせらぎタイムを見たことで、協力学級とはちがう姿を見られてよかった。

○普段見られない授業を見られたのは新鮮でよかった（せせらぎの全体研）

●せせらぎの全体研という形ではなく、期間を設けて見に来てもらってもよかったのでは。

→○自身の担任している児童の姿を見るには、全体研という形が自習の計画も組みやすく、やはり今年の形がよかった。

せせらぎ児童全体を指導している姿を見られるのは、学年担任にとっても新鮮で、刺激となった。せせらぎタイムを来年度も参観できるようにしていきたい。

事前検・事後検

○事前検内で、みんなで考えアイデアを出し合ったことがとてもよかった。

●事前検を夏休み中にもてるのが理想だが、それに向けて授業者が計画することはなかなかむずかしい。

□テーマが絞られていて話しやすかった反面、その他の良かった点（個別支援等）を全体で共有できる場がなかったのが残念だった。

○事前検内で指導案を考えるのは、「自分だったらこうする」という考えが深められてよかった。指導案を見ているだけよりも良い。

○授業者としては指導案を作ってもらえるのはありがたい。

○事後検をグループに分けたのは話しやすい雰囲気よかった。

○KJ法を事前に貼ってもらっていて、授業者としても考えを持てたのでよかった。

事前検に関しては、来年度も同じ方法を継続していきたい。事後検は、討議の柱となるテーマを決めておかないと話し合いの時間が足りなくなるが、テーマに当てはまらない意見を共有できる場所（jam board の2 ページ目など）も作っておくとよい。

指導案の書き方

- そのままよい。
- ズレについてはどうするか要件等

研究授業の日程

- 3年と5年の間がとてもタイトに感じた。(1か月あったが、事前検・事後検・他の行事等もあったため)
- 低と高の間が1か月空いて良かった。(これ以上時期をずらすには、授業者側が厳しいか?)
- 授業者の意見を聞きながら、負担とならない方向で考えていきたい。

学調・みえスタ・ワークシート

分析について

- 5限で児童を下校させ、研修時間を確保してもらってありがたかった。
- 第一回のときに、管理職のほうで採点していただいたので、焦点化して検討しやすかった。
- 6限カットしてもらって大変よかった。
- 強みと弱みの分析の仕方も今年度のものを来年度も継続でよい。

その後の取組・検証について

- 学校全体で弱みを共有できたため、それぞれの学年で、段階に応じた指導を意識して行うことができた。
- 弱みとなっている部分を宿題に積極的に出していけばよいのでは(ドリルパークなら教員の負担にならないのでは)
- 全体研の中で該当する箇所を考えて共有しておくの良いのでは。

学調やみえスタの分析の後、低学年は高学年の弱みの原因となる該当箇所を考える必要がある。弱みの原因となるドリルパークの該当箇所を各学年分全体研の中で考えるのがその後の活用には大切か。

ワークシートの活用について

- 長期休みのワークシートや朝学のワークシートの準備を管理職がしてくださっているのがありがたい。
- 朝のワークシートは、初見の文章を見て問題を解く経験になっているように感じる。
- 問題によっては時間が足りないと感じるときもある。
- ファイルに閉じて置いておく必要があるのか疑問に感じる。

朝学のワークシートは、来年度はその場で返却の方向にしていきたい。

来年度の研修について

①目指す子ども像に迫るための取組として、何の教科を中心にしてどのように研修を進めていくか。

算数，協働的，を継続で，ICTは必要に応じてで良い。しかし，使える先生が多いので，それはそれで広げていく。

算数継続

協働学習は今後も進めていくのがよい。ICTも失敗しながらでも使って模索していくのがよい。重点取り組みになっていることで，使うきっかけになっている。

今後の展望として，算数を継続しつつも教科横断的な視点を入れていくと良いかもしれない。

情報の発信が増えていく時代→正確な発信をするには国語科とも絡んでくる。表現，発信の時代。→生き抜く力。

協働学習の日常化が来年のテーマの一つか。協働学習の課題設定，グループでの役割など，協働学習をより深めるための方法を模索していくのがよいかもしれない。

授業を支える日常の取組について

朝の学習

○火曜日のYOMUよむワークシートの取り組みは子どもたちに習慣化してきた。

5年生の2学期末のYOMUよむ検証テストの結果を知りたい。

学習環境

○「拡張君」はとてもよい。

○統一の掲示物があるのは，学校で統一して指導ができるので良い。

クロームブックの保管庫を撤去してほしい。

1年生にも拡張君がほしい。

○端末の持ち帰りに際して，高学年の置き勉強についてはルールが統一されてきた。

学習の始まり

○おおむねチャイムと同時に授業をスタートできている。

○チャイム席の意識はある。

授業中

●当てられたときの「はい」という返事を，学年や授業担当者によって徹底できているところとそうでないところがある。

●子どもの姿勢が崩れるのが気になる。その都度，声かけはするがなかなか難しい。

●指名された時の「はい」という返事はさせていない。ただ，返事をする機会が少ないので，どこかで練習させるのは大事。

各学年それぞれ発達段階に合わせた指導の仕方があり，授業の中で全てはできないが，意図的に返事をする場面は日常の中で設定していきたい。

学習準備

- 「めあて」を青で囲むことが統一できつつあるので、赤青鉛筆を一年生から導入すると良い。
- 筆箱にキーホルダーをつけている子がいるのが気になる。
- クロームブックの充電が未だに習慣になっていない児童が一部いる。
- 朝の準備でパソコンを引き出しに入れるのは習慣づいてきた。

家庭学習（端末活用含む）

- 家庭訪問のときに配布しているプリントにある「家庭学習時間」などがあまり定着していない。配って終わりになりがちである。
- 端末での課題を出し忘れることがある。また、手間をかけて選択して出題しても、適当にやっている児童が一定数いる。
- 家庭で端末を使用させるために宿題を出すことがあるが、本来は定着のために出す必要があるのでは本末転倒になってしまっているときもある。
- 高学年は、週何回かは端末の宿題を出す日を決めてもいい。

- ・ ドリルパークの宿題を増やすことによって紙の宿題を減ってしまう問題もある。
- ・ 音読の録音は、現在の宿題の出し方に無理なく足すことができる。週一回は行っていきたい。
- ・ 学校生活に関する一行日記を毎日端末でつけるなど、小さなことでも家庭で端末を活用する機会を増やしていきたい。研修会などでアイデアを募集していく。